

当院における MMG の現状

久美愛厚生病院 荒尾 佳奈

I. はじめに

現在わが国において女性の乳癌罹患率は第 1 位となり、死亡者数も増加傾向にある。それに伴い MMG の有用性も高まってきた。そこで当院におけるマンモグラフィ検査の現状について報告する。

II. 使用機器・読影環境

使用装置は外来では東芝社製 Mammorex、自動現像機 FUJI CEPROS M2、読影環境はフィルム。検診では SEIMENS 社製 MAMMOMAT 3000Nova、画像処理装置 FUJI FCR PROTECT CS、レーザープリンタ FUJI DRYPIX7000、読影環境はモニタ診断。

III. 日常の精度管理

画像評価は午前の診療前に毎日行い、基準を満たしているかどうかを評価する。

IV. 実施状況

平成 22 年度 1 年間の当院における受診件数は、外来約 1150 件（乳腺外来約 550 件）、検診約 950 件であった。

検診で行う検査内容は MMG と視触診であり、当院で読影後、2 次読影として岐北厚生病院に依頼している。

症例検討会は週に 1 回実施され、技師も参加している。

現在、当院では 5 人（うち女性技師 2 人）がマンモグラフィ認定技師を取得しており、マンモグラフィ検査はすべて女性技師が行っている。

V. 今後の展望

岐阜県での乳がん検診受診率は 23.5%にとどまっており、受診率向上が望まれる。乳がん検診を無料で受けることができるクーポン券の配布や啓発ポスターの制作など、今以上に積極的に取り組む必要がある。また、医療機関側も安心・快適に受診していただける環境をより整備していかなければならないと考える。